

報道機関各位

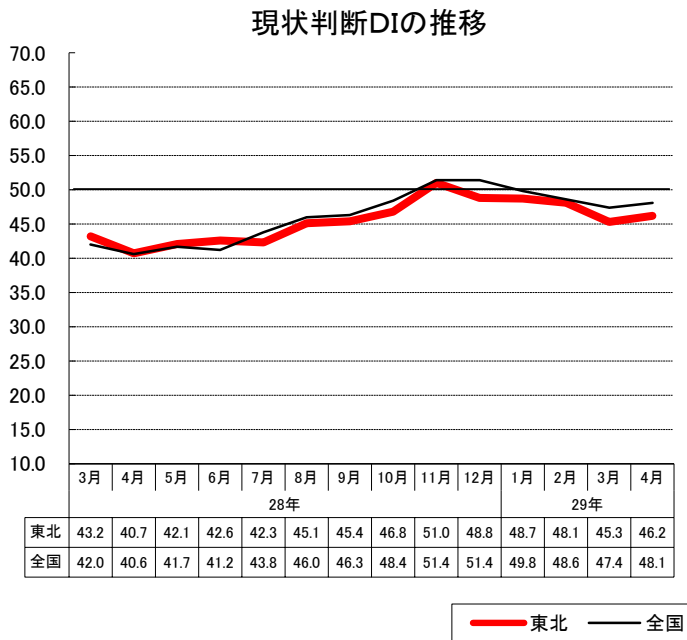
公益財団法人東北活性化研究センター
 「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 29 年 4 月東北分
 (新潟を含む東北 7 県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：海輪 誠・東北電力(株)取締役会長）は、このほど「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 29 年 4 月東北分（新潟を含む東北 7 県）」について、とりまとめましたのでお知らせいたします。

1. 季節調整値

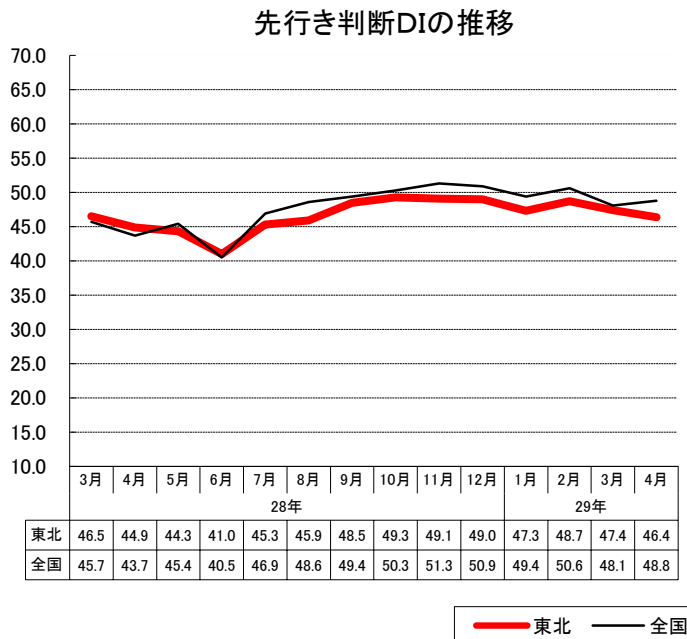
(1) 現状判断（3か月前との比較、方向性 季節調整値）

現状判断 DI は「46. 2」と5か月ぶりに前月を上回った。前月と比較し+0.9 ポイントとわずかに上回った。



(2) 先行き判断（2～3か月先の見通し、方向性 季節調整値）

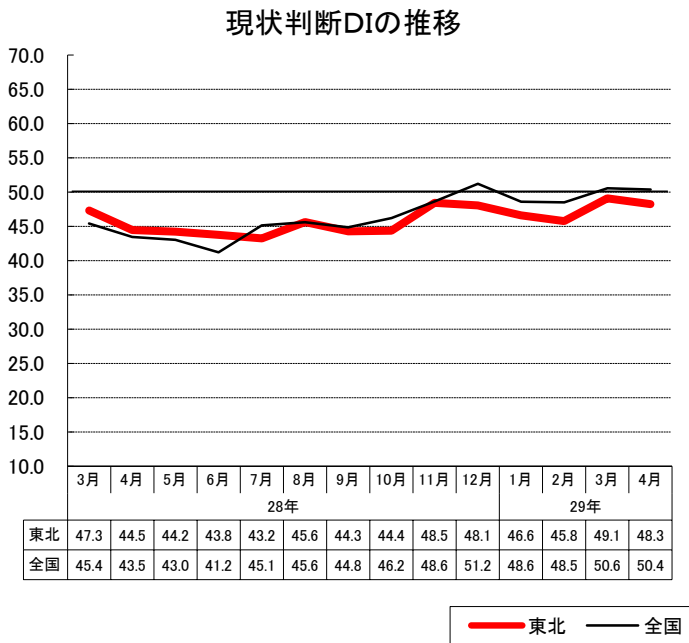
先行き判断 DI は「46. 4」と2か月連続で前月を下回った。前月と比較し▲1.0 ポイントとやや下回った。



2. 原数値

(1) 現状判断 (3か月前との比較、方向性)

現状判断DIは「48.3」と2か月ぶりに前月を下回った。前月と比較し▲0.8ポイントとわずかに下回り、21か月連続で景気判断の基準となる50を下回った。



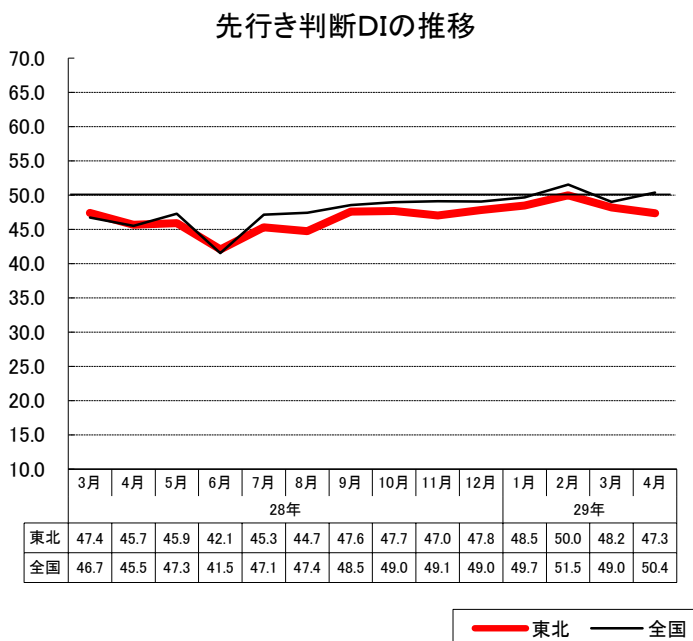
・家計動向…通信会社社員、観光名所・遊園地、百貨店等でDIが前月を上回ったが、一般レストラン、住関連専門店、一般小売店等の業種でDIが前月を下回った。DIは「47.7」(▲1.9)と2か月ぶりに前月を下回り、基準値50を23か月連続で下回った。

・企業動向…家具及び木材木製品製造業、金融業、その他企業動向を把握する者等でDIが前月を下回ったが、建設業、広告代理店、食料品製造業等の業種でDIが前月を上回った。DIは「45.4」(±0.0)と前月と同じ値になり、基準値50を13か月連続で下回った。

・雇用動向…DIは「57.1」(+4.8)と2か月ぶりに前月を上回り、基準値50を7か月連続で上回った。

(2) 先行き判断 (2~3か月先の見通し、方向性)

先行き判断DIは「47.3」と2か月連続で前月を下回った。前月と比較し▲0.9ポイントとわずかに下回り、2か月連続で景気判断の基準となる50を下回った。



・家計動向…住宅販売会社、住関連専門店、百貨店等の業種でDIが前月を上回ったが、一般レストラン、都市型ホテル、衣料品専門店等の業種でDIが前月を下回った。DIは「47.3」(▲0.7)と2か月連続で前月を下回り、基準値50を22か月連続で下回った。

・企業動向…家具及び木材木製品製造業、金融業、通信業等の業種でDIが前月を上回ったが、それ以外の業種では前月からDIが横ばいもしくは下回った。DIは「44.7」(▲3.3)と3か月連続で前月を下回り、基準値50を2か月連続で下回った。

・雇用動向…DIは「52.4」(+2.4)と、2か月ぶりに前月を上回り、7か月連続で基準値50を上回った。

<参 考>

■D Iの推移（原数値）

（1）現状判断（方向性）D I

	28年										29年			
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
東北現状	47.3	44.5	44.2	43.8	43.2	45.6	44.3	44.4	48.5	48.1	46.6	45.8	49.1	48.3
家計動向関連	46.6	42.5	42.4	43.2	42.2	44.4	43.3	43.7	47.4	46.6	46.0	44.4	49.6	47.7
企業動向関連	50.0	46.9	46.7	42.5	43.6	48.0	47.5	42.5	48.7	49.4	46.3	46.2	45.4	45.4
雇用関連(参考)	46.4	52.5	51.3	50.0	48.9	48.9	44.3	52.3	54.5	54.8	51.1	53.4	52.3	57.1

（2）先行き判断D I

	28年										29年			
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
東北先行き	47.4	45.7	45.9	42.1	45.3	44.7	47.6	47.7	47.0	47.8	48.5	50.0	48.2	47.3
家計動向関連	46.5	44.8	44.7	43.6	45.0	42.6	47.4	47.0	46.1	47.0	47.4	49.2	48.0	47.3
企業動向関連	50.0	46.9	48.0	36.3	44.2	48.7	47.5	48.8	46.7	47.5	50.6	50.0	48.0	44.7
雇用関連(参考)	48.8	48.8	50.0	43.8	48.9	51.1	48.9	50.0	53.4	53.6	51.1	54.5	50.0	52.4

※D I（Diffusion Index）について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

■調査の概要

調査期間 平成 29 年 4 月 25 日～30 日

回答者数 188/210 名、回答率 89.5%(全国 1,827/2,050 名、89.1%)

以 上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター（担当：萱場 喜樹）

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL：022-225-1426 FAX：022-225-0082

<別紙>

■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「良くなっている」

（観光型旅館）…行楽シーズンに入り、個人客及び団体客の申込が多くなっている。また、宿泊単価が微増ではあるものの、前年よりも上昇している。

○「やや良くなっている」

（百貨店）…季節商材の動きが良くなっており、前年に比べて、バッグ、雑貨を中心に高額商材が好調に推移してきている。また、今まで厳しかった婦人服の一部に動きが出ている。

（家電量販店）…白物家電は前年並みの売上と販売単価を維持している。ただし、4Kテレビが堅調に売れ、客単価が上昇しており、全体的な数字は前年を上回っている。

（高級レストラン）…花見を目的とした観光客が増えるシーズンであるが、例年に比べて明らかにインバウンド客が増えている。また、地元の顧客も、暖くなるにつれて外食に出かけるシーンが増え、3か月前と比較すると状況は改善されてきている。

（通信会社）…加入促進イベントや広告宣伝を控えているにもかかわらず、新規の加入者が増えてきている。同業他社との競争が最も激しい時期でありながらも、インターネットサービスの加入者が増えている。

（遊園地）…ゴールデンウィーク前半の動向次第ではあるが、今のところは春休みと週末の天候に恵まれており、来客数は前年を上回っている。

（電気機械器具製造業）…積極的な設備投資、新製品開発、既存品のバージョンアップが顕著にみられている。

（建設業）…新年度に入り、個人消費に若干の明るさがみえてきている。同時に民間工事の受注が増えてきている。

（人材派遣会社）…求人数の増加は継続している。特に東北エリアの特徴である製造業については、自動車関連、半導体関連の好況に伴い、裾野産業も活況を呈している。裾野産業企業では、生産量増加に伴う各種ワーカー、基幹職の募集を行っているケースが多いため、結果的に求人数が伸びている。

（職業安定所）…復興関係が大分進んできており、内陸部の住宅の確保も順調である。また、店舗も新しい店の開店準備などによる求人が出てきている。ただし、パート求人が多い。

○「変わらない」

（商店街）…春らしい好天の日が続いており、街なかにも人が結構出てきている。ただし、桜まつりの最盛期であり、そちらに足を向ける客が非常に多い。

（衣料品専門店）…寒暖の差が激しい気候のなか、羽織物を中心に春物が活発に動いている。カジュアル衣料は、半袖商品を中心とした夏物商材が立ち上がってきており、順調に推移している。一方、単価が稼げるビジネス衣料の動きが不安定であり、売上がかみ合わない状態である。

（乗用車販売店）…全国的には新型車の販売量が好調であるが、地元ではあまりそのような動きはみられない。

（住関連専門店）…最近の傾向として、商品が小型化しつつある。また、客は仕事を簡略化する傾向にあるため、売上が減少している。

（都市型ホテル）…数か月前と変わらない推移であり、来客数や売上が大幅に伸長するということがない。前年比は大幅に良くなっているものの、前年が悪すぎたためであり比較にならない。相変わらず停滞感が継続している。

（旅行代理店）…夏休みの受注状況は、国内旅行のうち沖縄方面が好調であるものの、それ以外は前年と比較しほぼ横ばいである。一方、海外旅行については情勢不安も続くことから様子見の客が多い。このような傾向は依然として変わっていない。

- (美容室) …地元から会社が次々と撤退している。職場が少なくなり、周囲も静かになっているため、利用客も減少している。
- (住宅販売会社) …住宅受注は、ほぼ目標額まで到達しているものの、建売は在庫がでている。
- (リフォーム業) …4月は大型工事が完了して予算を達成しており、前年の実績も超過している。
- (食料品製造業) …前年3月に駅前商業施設の新規オープンがあり、周辺店舗は好調であったが、今年ほどの店舗も動きが良くない。月前半は特に動きが鈍く中盤以降は少し動きが良くなったが、前年とは程遠い状況である。
- (金融業) …住宅需要はそこそこある。機械製造業の受注も堅調であり、景気が悪いという雰囲気はない。
- (経営コンサルタント) …春の昇給も、消費を刺激するほどの効果はない様子である。

○「やや悪くなっている」

- (医薬品販売店) …来客数は平年並みであるが、客単価の高い常連客の来店頻度が落ちているため、売上は平年の水準に達していない。
- (スーパー) …数多くの商品が値上げとなるなか、チラシ価格のデフレ傾向は継続しており、買い回りをする客が常態化している。
- (コンビニ) …最近では、目的買いが増えて衝動買いが減ってきている。新商品が出て、手には取るものの購入までには至らない客が多い。
- (酒類専門店) …今月は飲食店への販売量が良くない。平日と週末の差、繁盛店と静かな店の差など様々な格差が顕著に表れている。また、平日は飲食店へのアルコール類の配送が極端に少なくなっており、消費者が平日に外で飲む機会が減ってきていることを実感している。飲むならお金のかからない家という傾向がますます高まっている。
- (出版・印刷・同関連産業) …新規事業でなんとかカバーしているが、販売量が前年同月と比較して30%落ち込んでいる。
- (飲食料品卸売業) …全体の売上において特売の比率が高くなってきている。そのため、粗利益が1.5ポイントほど低下しており、経営においてのネックとなっている。
- (新聞社[求人広告]) …求人数の動きをみると、運送業などの偏った業種で相変わらず人手不足が続いている。全体的に景気が上昇するような動きがなく、やや悪い状態である。

○「悪くなっている」

- (一般レストラン) …今まで来客数が比較的多かった週末でも、少ない状況がみられている。平日においても、一概に悪いとはいえないものの、来客数が少ない日が多く、全体的に落ち込んでいる。同業他社も同じような状況であり、困っている様子である。

(2) 先行き判断理由

○「やや良くなる」

- (百貨店) …前年の大型商業施設オープンで売上が落ち込んだ反動により、この先2か月ほどは前年の売上を上回ることが見込まれる。その先は、中元商戦が見込みどおりの売上になれば、大きな落ち込みもなく推移するとみている。また、高額商材に動きが出ているため、全体の景気も上向きになると期待している。
- (家電量販店) …新製品やヒット商品など、特に大きな動きはないが、4Kテレビなどの需要がこれからも伸びていくとみている。また、客の消費マインドもやや明るい兆しがみえている。
- (ショッピングセンター) …春物が少し下向きである。先行きに不透明感はあるものの、夏に向かって衣料品を中心に少し底上げがあるのではないかとみている。
- (高級レストラン) …この先の時期は、どこもインバウンド客、観光客が増加する傾向にある。観光業界、サービス業界においては、景気がやや良くなるとみている。また、地元でも台湾のインバウンド誘致に力を入れており、更に7月はミシュランの当県版が発行されるため、これもプラスの材料になるとみている。

(電気機械器具製造業) …我々の業界では製品開発スパンがかなり長く、現在の積極的な設備投資などの状況を見ると、しばらくは好調な景気が続くともみている。

(金融業) …住宅業界では、近い将来住宅ローン金利が底値から上昇に転じるとみられている。また、この先は消費税増税も控えており、新築、中古にかかわらず増税前の住宅取得を検討する消費者が増えてきているのか、ローンなどの相談案件が増加している。

(人材派遣会社) …製造業の求人に関しては今後も伸長が見込める。また、中途採用の市況感としては、新卒採用で苦戦をしている企業が、中途採用で第二新卒層を採用する流れもあるため、しばらくは好況が続くと見込んでいる。

(民間職業紹介機関) …震災復興関連の求人数は減少しているものの、製造業関連については求人数が増加傾向にある。また、介護関係の求人数は相変わらず多い状態が続いている。

○「変わらない」

(商店街) …小売商業界全体ですますます激しさを増している地域間競争において、当地区は今一つ決定打に乏しい。むしろ現状維持を喜ばなくてはならないのかもしれない。

(コンビニ) …客単価の改善はこの先も継続する見込みであるものの、前年のたばこ税増税による買い控えの影響も少なくなってきたため、前年比における伸びは緩やかなものとみている。

(衣料品専門店) …カジュアル衣料が安定しているだけに、ビジネスでもカジュアルでも着用できる商品の動き次第で、今後の動向が変わってくる。

(旅行代理店) …アジア、ヨーロッパの国際情勢不安が影響しており、早期受注は好調とはいえない。この先も様子見の状況に変化はない。

(食料品製造業) …景気が良くなる材料が見当たらない。配送料や原材料単価が値上がり傾向にあるが、その分を販売単価に上乗せできない。

(建設業) …工事受注額は当初の見込みどおりであり、2～3か月先は現状のままで推移するとみている。

(職業安定所) …事業主や求職者の動きに特段の変化はみられていない。気になるのは、家族プラス少数の従業員で経営している店舗が、営業時間の短縮などの措置をとっていることである。できる範囲の営業に切替えているという話が増えている。

○「やや悪くなる」

(スーパー) …来客数の減少に加えて客単価も減少しており、売上は大きく減少している。また、チラシをみても競合店もかなり苦戦している様子であり、今後もこの状態が続くそうである。

(酒類専門店) …今まで堅調だった高付加価値商品も含めて、売上が全体的に鈍化している。地方においては人口減少の影響がじわじわと出ており、売上にも影響が表れてくるのではないかと懸念している。

(一般レストラン) …市場の動きが非常に悪い。色々なものが値上がりをしており、仕入単価も上昇している。今後2～3か月先の状況はよめないが、市場の雰囲気からも景気が良くなるとは考えにくい。

(窯業・土石製品製造業) …公共事業予算が縮小しており、震災復興需要も減少している。また、民間の大型プロジェクトもない。

(広告代理店) …大手運送会社の運賃値上は確実であり、納品物の運賃にも影響が表れるのではないかと懸念している。顧客へ転嫁できればいいが、収益の圧迫を懸念している。

(司法書士) …例年と比較して、不動産登記申請件数が15%程度低いことから、このままの状況で推移するとみている。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以上